

第8回国際協働プロジェクト

The 8th International Student Action Project



【ISAP08】

事業報告書

日本国際学生協会

International Student Association of Japan

後援 外務省

目次

第 1 章国際協働プロジェクト概要

実行委員長挨拶	P05
実行目的	P06

第 2 章第 8 回国際協働プロジェクト概要

第 8 回国際協働プロジェクト概要、協力団体	P08
年間スケジュール	P09
第 8 回国際協働プロジェクト日程	P10
第 8 回国際協働プロジェクト実行委員、スタッフ名簿	P12

第 3 章プロジェクト報告

国内活動概要	P14
事前勉強会	P14
学童交流会	P16
反省会	P17
活動報告会	P18
国内活動総括	P19
国内活動写真	P20
国外活動概要	P21
Dumpsite Tour	P21
City Tour	P23
School Activity	P25
Work 活動	P27
Week end Activity	P29
Nutrition Lecture	P31
Home Stay	P33
Friendship Night	P35
国外活動写真	P37

第 4 章実行委員、国内参加者の感想

実行委員感想	P40
国内参加者感想①	P41
国内参加者感想②	P43

第 5 章実行委員長全体総括	P45
第 6 章第 8 回国際協働プロジェクト予算書及び決算報告	
第 8 回国際協働プロジェクト予算書	P47
第 8 回国際協働プロジェクト決算報告	P48

第 1 章

国際協働プロジェクト概要

実行委員長挨拶

実行目的

実行委員長挨拶

2017年3月に実行委員長に承認されてから約9ヶ月。私達は、国際協働の難しさややりがいをも身を持って体験してきました。そして、たくさんの方々との「協働」があったからこそ、多くの挑戦を行うことができ、困難を乗り越えることができました。第8回の活動を終えようとしている今、前回の活動の反省点や成果を活かし、多くの方々のご協力のもと、意義高い価値のある約9ヶ月を作ることができたと感じています。このプロジェクトに関わり、支えてくれた皆様に心より感謝の意を表します。

本年度で8回目の開催となって本プログラムも、これまでの反省点を活かすことはもちろんのこと、常に新しいことに挑戦するという姿勢も大切にしてきました。母団体である日本国際学生協会（I.S.A.）の全国代表者をはじめ、会員の皆様、現地での活動を終始支え、共に働きかけてくれた LOOB スタッフ・キャンパーの皆様。私達日本人を温かく家庭へ受け入れてくださったホームステイ先のナナイ(Host-mother)、タタイ(Host-father)。現地の子どもたちの為にと文房具集めに尽力してくださった団欒長屋の淵上様をはじめとする関係者の皆様、私達の活動を熱心に聞いていただいた共立国際交流奨学財団の皆様、私達の活動相談にのっていただき、協賛していただいた皆様。これまでの事を成せたのはこのプロジェクトに関心を持ち、支えてくださった皆様のおかげです。心から感謝申し上げます。ありがとうございます。この報告書を読んでいただき、今後とも国際協働プロジェクトにご関心を持っていただければ幸いです。

私達の活動は、社会や世界から見れば、ほんの小さな一歩に過ぎないかもしれませんが。国際協働を通し、現地の方々にきっかけを与え相互成長につなげる。思い描いているように事が運ばないこともあり、実際に行動することの難しさを痛感することが多かったように思います。しかし、日本とフィリピンでの活動によって、私達は貴重な仲間と経験を得ることができました。そして多くの方々の笑顔や感動の涙、感謝の言葉や叱咤激励は、私達に行動する意欲と新たな気づきや学びを与えてくれました。これらの人々との関わりは決して小さなものではなく、一つ一つの関わりがかけがえのない大切なものであると信じています。私達のこれらの経験をより多くの方々に伝え、社会へ還元できるようこれからも努めていきたいと考えています。

最後に、私と共に困難を乗り越え、活動を楽しみ支えてくれた頼もしい実行委員・スタッフの皆様、心から感謝し、実行委員長の挨拶とさせて頂きたいと思います。

2017年12月 第8回国際協働プロジェクト（ISAP08）実行委員長 佐藤 秀

実行目的

この国際協働プロジェクト（ISAP）は「世界平和達成への貢献」を理念に掲げ、その為に必要な活動を様々な御協力者と共に働きかけながら作り上げ、実行することを目的とした国際協力活動を行うものです。

日本国際学生協会（I.S.A.）は 1934 年に発足した団体です。そして、第 2 次世界大戦という悲惨な体験によって、当協会は世界平和の重要性への認識を得ました。「世界平和達成への貢献」という理念に基づいて行われる私達の活動は、既に 83 年の時を経ています。その中での活動の一環として、私達は 63 回の国際学生会議を開催しています。この会議に参加した学生一人一人の心の中に「世界平和達成への貢献」という理念が確実に根付き、人類の相互理解への寄与は、大いに価値のあるものであると自負しています。しかしそれと同時に、私達は学生としての「行動」の重要性を痛感しています。63 回それぞれの会議の中で感じたことや考えたことを、行動により実社会に還元しなければならないのです。つまり、世界平和達成へのより大きな貢献の為には、議論の枠を越え、平和へ向けたより主体性を伴った行動が必要不可欠なのです。

今までに足りなかったこの「行動」を推進していく本プロジェクトにおいて、私達は次の実行目的を掲げることと致しました。

『自己の成長に伴う他者の成長への貢献』

「世界平和達成への貢献」という壮大な理念のもと、私達は全力で「学生に何ができるのか」という問いかけに立ち向かい、この問いかけに対して私達は成長を志向します。なぜならば、将来を担う私達学生が自らの手で課題を見つけ解決策を模索し実行に移していくことで得られる成長が、世界平和達成への大きな推進力になるということを I.S.A. の長い歴史の中で実感してきたからです。本プロジェクトを実践していく中で、私達の活動に関わる全ての人々が、私達の活動から何らかのきっかけを得てさらに成長し、彼らからもらう刺激を糧に私達もさらに成長する。そうして相互成長を促進し影響の輪を広げていくことによって、世界平和達成への基礎を築いていくのです。私達学生は今すぐ社会的に大きな影響を与えることはできませんが、10 年後 20 年後を見据えた時、私達の活動が着実に社会の大きな財産となっていると信じます。

私達個人の成長が ISAP という組織の成長に繋がり、それが他者への成長に繋がる。そうして学生一人一人の小さな力が世界平和達成への大きなうねりとなることを切に願います。そのための第一歩を、私達は踏み出したのです。

第2章

第8回国際協働プロジェクト概要

第8回国際協働プロジェクト概要、協力団体

年間スケジュール

第8回国際協働プロジェクト日程

実行委員・スタッフ名簿

第8回国際協働プロジェクト概要、協力団体

構成	国内活動：「事前勉強会」、「学童交流会」、「反省会」「活動報告会」 国外活動：「フィールドワーク活動」、「協働活動」
実行日	国内活動：2017年3月～2017年12月 国外活動：2017年9月4日～9月16日
場所	国内活動：豊中国際交流センター、団欒長屋（学童） 国外活動：フィリピン共和国パナイ島南部イロイロ州イロイロ市
ねらい	協働を通じた実践により自他共に成長し、広い視野をもつこと
参加人数	18人
協力団体	NGOLOOB、団欒長屋(学童)、共立国際交流奨学財団
後援	外務省

年間スケジュール

- 3月 実行委員長承認式、引継ぎ会、第一回実行委員事前勉強会
- 4月 第二回実行委員事前勉強会
- 5月 第三回実行委員事前勉強会、第1回学童交流会
- 6月 第四回実行委員会議（スタッフ選考）、第一回実行委員・スタッフ合宿、
第2回学童交流会
- 7月 第二回実行委員・スタッフ合宿
- 8月 第三回実行委員・スタッフ合宿、第3回学童交流会
- 9月4日～16日 国外活動（フィリピン・イロイロ市）
- 10月 反省会、第4回学童交流会、ISAPOB・OG会
- 11月 活動報告会
- 12月 第9回国際協働プロジェクト実行委員長決定

第8回国際協働プロジェクト日程

日付	活動内容	活動場所
9月4日	日本出国 マニラ経由イロイロ着 LOOB share house 着	
9月5日	Getting to know ダンプサイトツアー ダンプサイト家庭訪問 Child minding	LOOB share house カラフナダンプサイト
9月6日	イロイロシティツアー ワークショップ	イロイロ市内 LOOB share house
9月7日	オープニングセレモニー ナバイス村散策 ワーク活動 ホームステイ	LOOB base ナバイス村 ナバイス小学校
9月8日	ワーク活動 Nutrition Lecture School Activity ホームステイ	LOOB base
9月9日	ワーク活動 School Activity 準備 ホームステイ	ナバイス小学校 LOOB base
9月10日	Sunday Homestay ホームステイ	

9 月 11 日	ワーク活動 School Activity Nutrition Lecture ホームステイ	ナバイス小学校
9 月 12 日	フレンドシップナイト準備 フレンドシップナイト	LOOB base
9 月 13 日	Weekend Activity ホームステイ	ナバイス村
9 月 14 日	クロージングセレモニー フェアウェルパーティー ショッピング LOOB share house 着	LOOB base SM モール
9 月 15 日	ギマラス観光	ギマラス島
9 月 16 日	イロイロ発 マニラ経由日本帰国	

実行委員・スタッフ名簿

＜実行委員一覧＞

注 ISAP07：第七回国際協働プロジェクトの略称

役職	名前	大学・学年	備考
実行委員長	佐藤秀	関西大学 2年	
総務部長	永井絵理	ノートルダム清心女子大学 4年	ISAP07 スタッフ
財務部長	佐伯郁奈	南山大学 2年	
広報部長	長瀬円香	南山大学 2年	ISAP07 スタッフ
企画部長	成田彩夏	南山大学 2年	ISAP07 スタッフ
企画スタッフ	池田有希	南山大学 2年	

＜運営スタッフ一覧＞

名前	大学・学年
井深翔太	岡山大学 4年
佐方瑛二	岡山大学 3年
栗原拓也	関西大学 3年
丹原菜々子	ノートルダム清心女子大学 3年
市川早紀	南山大学 2年
中藤純子	岡山大学 2年
安倍果歩子	京都女子大学 1年
井原峻貴	岡山大学 1年
大西晃史	岡山大学 1年
小寫楓子	南山大学 1年
永野有芽	岡山大学 1年
渡邊果歩	岡山大学 1年

第 3 章

プロジェクト報告

国内活動概要

事前勉強会

学童交流会

反省会

国外活動報告会

国内活動総括

国内活動写真

国外活動概要

Dumpsite Tour, City Tour,

School Activity, Work 活動

Week end Activity, Nutrition L 4 b t j

HM8Vecture,

Home Stay, Friendship Night,

国外活動写真

国内活動概要

期間： 2017 年 3 月 ～ 2017 年 12 月

活動内容：1. 事前勉強会
2. 学童交流会
3. 反省会
4. 活動報告会

事前勉強会

文責：成田 彩夏

1. 活動の目標目的

国外活動前に、フィリピンや国際協働、国際協力、提携団体についての知識を身につけ、国際活動の準備を行うこと。またメンバー間の友好関係を築き、協働を通じた実践により自他共に成長する。

2. 活動内容詳細

日程：2017 年 3 月～2017 年 8 月

活動場所：豊中国際交流センター、賢者屋、千里丘市民センター

活動内容

メンバー間の活動に対する認識を統一させるため、各活動に対して目標や目的を定めた。また、メンバーの仲を深めるための企画を取り入れ、毎月の集まりを泊まりで行っていた。事前活動の主な内容はアイスブレイク、英語企画、勉強会、国外活動の準備の4つに分類できる。

・アイスブレイク

学年・出身がバラバラなメンバーが集まるので、メンバー間の壁をなくすために毎回集まりの初めに、アイスブレイクの時間を設けていました。スタッフの中からアイスブレイク係を決めて活動を行いました。

・英語企画

国外活動中のフィリピンでは英語がメインの使用言語になるので、それに備えて英語企画の時間を設けていました。今回の英語企画はアイスブレイクの役割を兼ねていて、より一層仲を深めるきっかけになりました。また、実践英会話を学んだ企画もあり、国外活動に向けての勉強にもなりました。

・勉強会

参加メンバーのほとんどがフィリピンへの渡航経験がなかったこともあり、少しでもフィリピンの文化や現地の状況を知れるよう、フィリピンについての知識詰めを行いました。内容は、フィリピンの基本情報、ダンプサイト、食、教育の大きく分けて4項目です。加えてフィリピンへの渡航経験者から現地の水回りのことなど生活環境や、安全情報について伝えられる時間もあったので国外活動に向けての参考になりました。

・国外活動の準備

国外活動の準備において、企画の内容に合わせてグループを作り、それぞれのグループにおいて目的・目標を定め、活動内容についての話し合い、マテリアル作成など企画準備や練習を行いました。内容については、現地で披露するダンスの練習、フィリピン人メンバーに渡すプレゼント作成や現地で出す料理決め、またメインの活動として小学校で行うレクチャーの準備でした。これらは、月一回の実行委員・スタッフ合宿では時間が足りないため、週2回ほどのLINE通話を行いました。

反省点

活動に際して、現地の細かい状況などが分からず広く準備をしないといけないことが多かったのも、現地のスタッフとの連絡を増やしたり、去年の実行委員に連絡を取ればよかったです。また、グループに分かれて企画準備を進めることが多かったのも、グループ間の共有がきちんと行き届いていなかったことがありました。もっと企画共有の時間を設けるとともに、他の企画に対してメンバーから提案や意見があがるとさらに円滑に活動準備が行えたと思います。

感想

事前勉強会では、スタッフの役割を決めたことで、アイスブレイクや英語企画など、勉強会で行う企画の準備を割り振ることが出来ました。事前勉強会で行った活動はどれも国外活動に向けての活動であり、準備をすることも多く、時にはつらいこともあったが、その分現地に行って不安になった時や辛くなった時のやる気につながり、心の支えにもなりました。また、月一回の集まりだけでなく毎週LINE通話で話し合いがあったことで、各メンバ

一のモチベーション維持にもつながりました。さらに、事前勉強会で集まる時間が多かったため、国外に行く前に、メンバーが仲を深めることが出来、活動が円滑に進む一助にもなり、国外活動にむけて大切な役割を果たす活動でした。

学童交流会

文責：大西 晃史

1. 活動の目的目標

フィリピンの子供たちと日本の子供たちをつなげる。
子供との接し方を学ぶ。

2. 活動内容詳細

日程：5月13日、6月24日、8月19日、10月14日

活動場所：団欒長屋

協力団体：団欒長屋

活動内容

団欒長屋(学童保育)さんの子供たちと一緒に遊んだりフィリピンの事について簡単にレクチャーしたりすることを通して交流しました。レクチャーはクイズ形式で行ったことで子供たちもISAPやフィリピンのことについて楽しんで学んでくれました。他にもフィリピン出身の女性の方のもと子供たちと一緒にフィリピンの伝統料理のひとつである「バナナ・トロン」を作ったり、夏には流しそうめんもしました。日本とフィリピンの子供たちを繋ぐ活動としてはお互い短冊に将来の夢や願いなどを自由に書いてもらってそれを交換しました。

感想

ISAP 学童交流は日本とフィリピンの子供たちの異文化理解にも繋がる活動です。異文化に触れることで興味を持ってくれたり、子供たち自らの世界観を少しでも広げたりする手伝いをしたいと思って活動しました。それだけでなく子供たちとの遊びのを通して楽しんで活動したいとも思っていました。毎回数時間の交流だったのですが、子供たちの純粋無垢な笑顔や豊かな感性に触れて、メンバー一同充実した時間を過ごさせてもらいました。子供たちからもフィリピンについての質問を受けたり、活動報告のときには前のめりになって聞いてくれたことから、目標の達成もできたと思います。学童交流は自分達が見てきたフィリピンを伝える事のできる有意義な活動なのでこれからも続けてもらいたいです。

反省会

文責：佐伯 郁奈

1. 活動の目的目標

ISAP で学んだこと、得たもののより多くの人に還元し、自他共に成長する。

次回の ISAP の活動を今回より充実したものにするためのアドバイスをを得る。

2. 活動内容詳細

日程：2017 年 10 月 15 日

場所：豊中国際交流センター

活動内容

2017 年 3 月から国外活動にかけて行ってきた活動内容について、メンバーで集まり反省会を行った。はじめに各自で国内活動、国外活動それぞれについて反省し、その後メンバー間で各自の反省を共有した。反省項目は良かった点、悪かった点、改善点の 3 つだった。その後、役職分担についての反省をし、最後にメンバー間でメッセージを送りあった。

反省点

各自の反省とメッセージ交換が予定よりも伸びてしまい、全体的に時間が押してしまいました。国内活動の反省で 1 時間、国外活動の反省で 1 時間という予定だったのですが、1 人当たりの時間を意識していなかったことにより時間が押してしまったと思います。次回からは、タイムキーパーをつけることで改善することができるのではないかと思います。

感想

自分たちが行ってきた活動を改めて振り返ることができて良かったです。国外活動に向けて準備していたところと、国外活動を終えた後では、メンバーの考え方や関係性が変わったことを再確認することができました。メンバーの反省を共有する時間を設けたことで、自分とは異なる考え方や感じ方を知ることができました。反省項目のうちの改善点については、次回の ISAP に活かしてほしいと思うので、引継ぎをしっかりとしたいと思います。役職分担の反省では、この役職があればもっとうまくいく、この役職はなくてもよいのではないかなど次回の ISAP に活かせる反省ができました。反省会の最後に行ったメンバーとのメッセージ交換では、3 月から 10 月にかけて行った国内活動、国外活動での様々な出来事を思い出し、再度 ISAP08 に参加してよかったと感じ、メンバーとの仲がはじめとは比べものにならないくらい深まったことを実感できました。

報告会

文責：長瀬 円香

1. 活動の目的・目標

私たちが ISAP の活動を通して学んだことを ISA 会員はもちろん、外部の人にも発信し、多くの人に還元すること。そして来年度以降の活動につなげていくこと。

2. 活動内容詳細

日程：11 月 12 日

活動場所：豊中国際交流センター

活動内容：まず始めに ISAP08 の活動概要や、協力団体 LOOB の説明をしました。その後、ISAP08 の国内活動、国外活動についてそれぞれ細かく分け、パワーポイントと動画を使って説明しました。動画を用いてクイズをしたり、実際に現地で School Activity の際に使ったマテリアルを用いてクイズをしたりもしました。実行委員とスタッフそれぞれで担当を分け、担当のアクティビティについて体験談なども交えながらわかりやすく説明しました。発表の後は座談会を行い、報告会に来てくださった方々とより近い距離で交流をしました。

3. 反省・改善点

広報が足りず、報告会の参加者が少なかったことが 1 番の反省です。SNS などを用いて報告会の広報を行いました。十分ではありませんでした。ISA 会員だけではなく、一般の方にも広報をする方法を考えなくてはならないと思いました。また、ISAP の OB、OG の方や同じ協働活動をしている他団体への広報も強化すると良いと思います。

4. 感想

少人数での報告会にはなりましたが、個人的にはアットホームな雰囲気での報告会ができて良かったと思います。実行委員、スタッフ全員が自分の経験も交えて ISAP を通して学んだことを共有でき、ISAP の魅力を参加者の方に知ってもらおうと共に、自分たちも改めて活動を振り返ることができました。また、発表の後に行った座談会では、過去に ISAP に参加された方に今年の活動について意見を頂いたり、参加された当時のお話を聞いたりすることができました。ISAP が 01 から 08 まで繋がっていることが実感でき、とても嬉しかったです。ISAP の活動を発信することもでき、参加者の方とも交流することができた良い報告会になったと思います。

国内活動総括

文責：永井 絵理

今回の ISAP08 のテーマである「食育を通して子供達の力になる」のもと、フィリピンの子供達のことを考え、食育に関しての知識を各自深めていきました。何をするにしても、子供達はどう思うか。子供達がこれを学ぶことで力になるのか。子供達を一番に考えて国外活動の準備が出来たと思います。私達 ISAP08 のメンバーは仲の良さが自慢です。それが裏目に出ることもありましたが、しっかりと意見をぶつけ合い、励まし合いながら、国内活動を行えました。

国内活動写真

・ 事前勉強会の様子



・ 学童交流会の様子



国外活動概要

期間：2017年9月4日～16日

活動場所：フィリピン共和国パナイ島南部イロイロ州イロイロ市

対象：ナバイス村に住む人々

目的：協働を通じた実践により自他共に成長し、広い視野をもつこと

構成：「フィールドワーク活動」、「協働活動」

協力団体：NGO LOOB

Dumpsite tour

文責：井深 翔太

1. 活動の目的・目標

実際にスモーキーマウンテンを訪れ、自分の目でその様子を確認し、スモーキーマウンテンがどのようなものかを知る。スモーキーマウンテンに住み、そこで働く人々やその家族にインタビューをすることで価値観を理解し、私たち自身の普段の生活との違いを学ぶこと。

2. 活動内容詳細

日程：2017年9月5日(火)

活動場所：イロイロ市カラフナンにあるスモーキーマウンテン

活動内容

スモーキーマウンテンを訪れ、実際にスモーキーマウンテンの内部を見学しました。またスモーキーマウンテンのすぐ隣にある、ウエストピッカーの方の家庭を訪れて、彼らにスモーキーマウンテンで働いている現状や家庭生活などたくさんのかたを聞かせていただきました。

3. 反省・改善点

反省としましては、今回のスモーキーマウンテンの訪問は準備不足だったということてす。ウエストピッカーの方々の家庭に訪問した際にあらかじめ用意していた質問をさせていただきました。1グループ4～5人ほどで1人3つ程度質問を考て来ていたのですが、訪問時間が思ったよりも長く、質問が尽きてしまいました。そのため質問を考る無言の時間が生まれてしまいました。また、質問の内容についても当たり障りのないようなものばかりだったと思います。ほとんどがYESかNOで答えられるようなものばかりだったため、そ

れも質問が早く尽きてしまった原因だと思います。ウエストピッカーの方にお話を聞ける機会などまずないと思うので、国内にいる間にもっと質問をよく考え、もっと突っ込んだ質問ができれば良かったと思いました。なので次回からは国内で質問を考え、みんなで共有する時間をとる必要があると思います。スモーキーマウンテンのことやウエストピッカーの方々のことを詳細に調べて、現地に行かなければ質問できないような内容の質問を考える必要があると考えます。

4. 感想

国内にいるときも、スモーキーマウンテンの写真や動画などでイメージはできていました。スモーキーマウンテン自体は、イメージとそこまで差はなく、大量のゴミが積み重なっていました。しかしスモーキーマウンテンの周辺は、イメージとは大分差があったように思います。そこはとても生活感があり、独特の雰囲気を感じさせていました。なぜならば、そこではウエストピッカーの方々やその家族の方々が生活しているからです。ゴミの山の隣に普通に人が住んでいるということに、驚きを隠せませんでした。スモーキーマウンテンの悪臭が漂ってくる場所での生活は日本人からすれば考えられないようなものです。家までの道も細く、草が生い茂り、ゴミなども散乱していたため、良い環境ではありませんでした。しかし、ウエストピッカーの方にお話を伺ったときに、「お金があったらここから出て行きたいですか」と質問をしたら、「出て行きたいとは思わない」と言っていました。理由は家族が帰る場所だからだそうです。私は単純に環境が悪いなら出て行きたいだろうと思っていました。しかし、そこで生活する人々は、彼らなりの信念を持って生活していることに気がつきました。そして、そこで生活する人々の強さにも気がつきました。よく思い出してみれば、そこで生活する人々の表情は暗くなかったと思います。

私たちが住んでいるところは彼らが住んでいる所より遥かに良い環境だと思います。しかし彼らより表情豊かに生活できているかと言われたら自信がありません。今回の経験を通して、今後の生活では彼らに負けないうくらい強く生きたいと思いました。

City Tour

文責：安倍 果歩子

1. 活動の目的・目標

イロイロ市の歴史や文化を知り、イロイロ市の人々の生活を身近に感じてみる。フィリピンと日本の歴史的関係を学ぶ。自分たちがこれから共働活動をする地について学ぶ。

2. 活動内容詳細

日程：9月6日（水）

活動場所：イロイロ市内

活動内容

フィリピン人キャンパーとイロイロ市内をグループに分かれて観光しました。指定されたポイントを探し、グループ全員で写真を撮って巡るというフィリピン人キャンパーが事前に用意してくださったミッションゲームをしながら観光をしたりイロイロ市の歴史を学んだりしました。

3. 反省・改善点

City Tour はとても楽しかったという記憶を今でも持っています。しかし反省として挙げられることは、イロイロ市で暮らしている方とのコミュニケーションが少なかったということです。コミュニケーションをとる機会は少なくなかったと思いますが、国内参加者自体フィリピン人キャンパーに現地の方へ道を尋ねることや、写真撮影の依頼を任せてしまっていたように思います。甘えずに積極的に現地の方々とのコミュニケーションを心掛けるべきだったと思います。

4. 感想

この日は現地に着いて3日目でした。City Tour ではフィリピン人キャンパーの皆さんとの親睦をより深められました。現地の方はとても親切に道案内をしてくれたり、とても暑かったので体調を気にかけてくれたり、私たちはそのような現地の方々の優しさに終始とても嬉しく感じていました。

フィリピンの方々が計画してくれたミッションゲームのお陰で、イロイロ市の歴史的建造物や銅像やオブジェなど、特有の歴史や文化を肌で感じる事ができたことが良かったと思います。市役所の屋上といった気になければ目につかないような場所にある銅像や、ユニークな形のオブジェ、これがフィリピンらしさなのかなと思いながら市内を歩いていました。私が新鮮だったことは、道路に信号がほとんどないことでした。車の交通量

が多いのにも関わらず、歩行者が運転手に止まるように合図を出して車道を渡っていくということが至る所で見受けられました。日本に帰ると、同じような交通量と道幅でも歩行者も運転手も自分の進む方向しか見ていなく、機械を通さないと道を譲れないと思うと、寂しささえ感じました。フィリピンではたとえ一瞬間であっても、人とのつながりが多かったように感じます。City Tour ではイロイロ市の方の優しさに触れ、フィリピンの歴史や文化、現地の習慣などを実際に感じる事が出来ました。衝撃、感動、人の温かさだけでなく冷たさも、すべて新鮮で楽しかったです。

School Activity

文責：渡邊 果歩

1. 活動の目的・目標

フィリピン人の子供たちに牛乳の大切さ、食べ物のありがたみ、日本を感じてもらうことを目標に、様々な工夫を凝らして楽しんで子供たちにそれらのことを知ってもらうことを目的としました。

2. 活動内容詳細

日程：9月8日(金), 11日(月)

活動場所：Navais Elementary School

活動内容：牛乳の良さや栄養バランス、食べ残し事情の説明

おにぎりや七夕といった日本文化の体験

牛乳と日本文化、日本食文化と食育という2グループに大きく分け、レクチャー内容を考えました。その結果、前者は牛乳と七夕、後者は栄養バランスと食べ残し、キャラおにぎりのレクチャーをすることに決定しました。

牛乳のレクチャーをすることにしたのは、牛乳を飲むことによって、食事で十分に摂取出来ない栄養が摂れ、子供たちの健康に良い影響を与えると考えたからです。牛乳が出来るまでの過程、牛乳の栄養、成長における牛乳の大切さ、飲まないことのリスク、牛乳を飲む最善のタイミング、他食品との栄養素の比較、好き嫌いに關することのように細かくテーマに分け、それぞれ調べました。画用紙に要点と絵を書き、子供たちが理解しやすいように工夫しました。レクチャーの最後には、子供たち一人一人にカラバオミルクを配り、牛乳を飲む機会を設けました。

日本文化としては、フィリピン人キャンパーの数や準備の大変さを考慮して、子供たちが文化を学ぶと同時に、体験できる行事である七夕をすることにしました。まずは日本の四季について軽く説明し、織姫と彦星の話を紙芝居で伝えました。七夕という行事を教えた後、実際に体験してもらうために、現地の子供たちに短冊にお願い事を書いてもらいました。それを、学童の子供たちに書いてもらった短冊と一緒に、紙上の大きな笹に貼り付けました。

食育については、栄養バランスの大切さを教えることにしました。赤・青・緑の食品群のはたらきとそのグループに含まれる具体的な食べ物について説明した後、食べ物の写真を見せてどの色に入るかを当ててもらい、最後にフィリピンの伝統料理に含まれる食材をグループ対抗で分類してもらいました。また、食べ残しに決定したのは、フィリピンの食の事情について調べていくにつれて、食材を輸入しているにもかかわらず、食べ残しによる食材廃棄量が多いと分かったからです。そこで、フィリピンで毎日毎食食べられているお米が食卓に届くまでのプロセスをペープサートのようにして説明した後、実際に食べ残されている

る量を重さで感じてもらい、食べ物の命を頂いていることや、生産者やお母さんへの感謝を認識してもらおうとしました。

日本食文化としては、おにぎりとキャラ弁を融合させたキャラおにぎりをすることにしました。まず、写真を見せながら、おにぎりとキャラ弁についてそれぞれ説明し、その後実際に作ってもらうという流れに決定しました。おにぎりを形作るのは子供たちにとって難しいと考え、自分たちがレクチャーの直前に握ったおにぎりに、様々なトッピングを使って、各自顔などの好きな模様を作ってもらいました。

3. 反省、改善点

国内での準備が十分に出来ておらず、国外に行った後に焦って、レクチャー前日まで準備をしてしまっていたので、もっと準備を計画的に進める必要があったと思いました。この理由としては、国内でグループごとに通しの練習があまり出来ず、自分たちの不足分に気付いていなかったことが挙げられると思います。なので、可能であれば学童などで子供たちに 1 回レクチャーをしてみて、国内でのクオリティをもう少し上げてから行けば、国外でよりスムーズに準備、レクチャーを行えたと思いました。レクチャーの間に、子供たちの集中が続かず、特に教室の後ろにいる子供たちは話し出したり、外に行っちゃったりしていたので、企画の間にもアイスブレイクか、クイズなどを入れると良かったと思いました。また、一人で 1 つのトピックを担当するよりも、少人数のグループで活動する方が良いという意見もありました。それは、グループでやる方が壁にぶつかった時に、問題を共有し、解決しやすいというのが理由です。

4. 感想

国外活動も終わった今、反省点はいくつかありますが、「子供たちの力になる」という大きなテーマに沿うことが出来たと思います。子供たちのことを第一に考えて、より良いレクチャーになるように試行錯誤した甲斐もあり、大きな声で反応してくれたり、クイズに積極的に答えてくれたりしてくれて嬉しかったです。大雨によって、School Activity の日が 1 日減り、1 回しかレクチャーを行うことが出来なかったグループもあるのは残念でしたが、フィリピン人キャンパーさんと協力して、無事終わらせることが出来て良かったと思います。私たちがレクチャーで行った内容が、少しでも子供たちの心に残ってくれていれば幸いです。

Work 活動

文責：佐方 瑛二

1. 活動の目的・目標

LOOB スタッフ、フィリピン人キャンパー、ISAP メンバーで協力して Work 活動を行うことでお互いの絆を深めることを目的としています。

2. 活動内容詳細

活動日程：2017 年 9 月 7 日 午後

9 月 8 日～11 日午前

9 月 13 日

活動場所：Navais Borres Elementary School

活動内容

給食を必要とする児童が増加し給食を食べるスペースが足りなくなったため、Café のような食堂を作成しました。

①掘るグループ(leveling)

地面を掘り地盤の高さを揃えました。また、コンクリの壁を作成するための溝の作成も行いました。

②混ぜるグループ(mixing)

食堂の外壁を作る為のコンクリートとモルタルを作成するために、スコップを使用して、セメント、砂、砂利、水を混ぜ合わせました。

③土の調達グループ

土の採掘を行った後、袋にその土を詰め作業現場まで運びました。

④ふるいにかけるグループ

セメントなどに使用するための砂と砂利を、土からふるいを使用して分けました。

⑤外壁・床作成グループ

レンガを積み上げながら外壁の基礎の作成を行いました。その際②のグループで作成したセメントとモルタルを使用しました。また、基礎の上からモルタルを塗り、レンガがむき出しにならないようにもしました。①で高さを揃えた部分にセメントを流し込み整えることで、床の作成も行いました。

⑥ペンキグループ

食堂の骨組みとなる木材部分に白色のペンキで塗装しました。

3. 反省・改善点

今回の work を通して、フィリピン人の指示待ちをしすぎたと反省しています。私は工学部に所属しており、いづらか力になれるところはありません。それなのに積極的に意見を言う

ことが出来ず、ただ与えられた作業を淡々とこなしているだけとなり、技術者としての交流が全く出ませんでした。

全体での反省

①積極性・自主性が足りなかったと感じました。作業スペースに対して人数が多く、日本人に対しての指示が足りていないと感じる場面が多くありました。しかし、自分たちは子供たちの為に少しでもと思い作業しているのに、自から率先し仕事を探さなくてよかったのか？という疑問が残る結果となりました。日本人はまとまとさぼる癖があると感じます。その為来年からは人数を分ける工夫が必要であると感じました。

②混ぜる工程の際、セメントをしっかりとりきらなかったため、作業が進むごとに地面に凸凹が出来てしまいました。フィリピン人はあまり気にしていないようでしたが、子供たちが当たり前のように通ると考えると危険ポイントになりかねないです。その為、箱の中で混ぜるか、何か敷いてから作業を行うか改善が必要であると感じました。

4. 感想

今回の work では食堂を作成しました。現在のフィリピンは日本とは異なり全員が給食を食べられるわけではありません。家庭状況の厳しい子に与えられるという仕組みになっています。以前までは現在の部屋で足りていたのですが、徐々に給食を必要とする人が多くなってきており、スペースが足りないということで今回食堂を作ることになりました。作業自体はかなりの肉体労働で、さらに慣れない作業ということもあり、メンバーの疲れは最高潮まで達してしまっただと思います。しかし物珍しさに集まった学校の生徒たちが声をかけてくれたり、work のメンバーで声を掛け合ったりすることで楽しく乗り切ることが出来ました。また休憩の際など、みんなでサリサリという駄菓子屋のようなところに行き、お菓子を食べたり、子供と遊んだりするなど微笑ましいところも見ることが出来ました。今回の work を通して、フィリピン人のメリハリの良さに終始驚かされました。普段はふざけたりしている彼らですが、いざ work が始まると人が変わったように仕事に熱中します。自分の役割をしっかりと理解し真剣に取り組む。そんな彼らに大切な事を教えてもらえました。いつも机の上でしか学んでいない私にとって、今回の体験はとても貴重なものになりました。実際の現場の雰囲気や作業の手間など、学べたものは多かったと思います。ただ日本と同じく地震の多いフィリピンだからこそ、もう少し地震対策をしなくてもいいのかな？という疑問があり、そこを最後まで聞けなかったことが心残りです。今回の作業期間では食堂は完成しませんでした。完成を見ることが出来なかったことは残念ですが、自分たちが携わり完成した食堂で子供たちが楽しく給食を食べられる日を願っています。また来年以降の ISAP メンバーが、その光景を報告しに来てくれることを楽しみにしています。

Weekend Activity

文責：栗原 拓也

1. 活動の目的・目標

日本の文化を現地の子供たちに紹介することで、その子供たちの成長や視野を広げることにも貢献すること。

2. 活動内容詳細

活動日程：2017年9月13日（水）

活動場所：イロイロ市ナバイス村運動場

活動内容

ナバイス村の子ども達を集め、アイスブレイク、ダンス、また洪水により一部実施できなかった School Activity を行いました。また、協力団体の LOOB さん主導による Feeding を行いました。

アイスブレイクでは人間知恵の輪やだるまさんが転んだなど、日本ならではのゲームを体験してもらうことができ、現地の子ども達もとても楽しそうでした。すでにルールを知っている子もいたりして日本文化の浸透を感じることができました。人間知恵の輪は10人程度のグループで手を繋いで輪を作り、手を繋いだまま人と人の間を好きにくぐったりして元に戻す遊びです。ほどくスピードを競う対戦式にしたのでかなり盛り上がっていました。また、日本人キャンパーも間に入ったので子ども達もとても嬉しそうでした。

ダンスでは、『ようかい体操第一』を全員で踊りました。ここでも日本の文化を感じてもらえることができ、より簡単に踊ることができるものということでこの曲を選びました。始めは見よう見まねでしたが慣れてきてからはアレンジを加えたり互いに教えあったりしてとても良い交流になりました。全員で輪になって踊ったので一体感を感じることができました。

School Activity では、フィリピンの子ども達により牛乳について興味を持ってもらえるよう工夫し、牛乳についてのレクチャーを行いました。牛乳に含まれる栄養素の確認から他の食品との栄養素の比較や牛乳を飲むと良い時間帯、よりおいしく飲むための方法、そして牛乳を飲むことの大切さを紹介しました。屋外だったのでどれだけ関心を引くことができるか心配でしたがみんなの協力もあって満足のいくレクチャーをすることができました。

その後は子どもたちと一緒に feeding の一環でスープを食べました。具がたっぷりとても美味しかったです。その後子ども達とおしゃべりしたりバスケットボールをしたり、のんびりと楽しく過ごすことができました。

3. 反省・改善点

Weekend Activity ということで子ども達と楽しく交流しながら活動を行うことができた

ので全体としての雰囲気はとても良かったです。ただ、日本人同士で固まってしまうことがあったり、疲労も見られたりしたので、そういったところを子ども達とのコミュニケーションに向けられればより深い交流ができたのではないかと反省しております。また、各準備を小グループで行っていたので、本番になって細かい部分の確認をするなど準備不足が少し目立ってしまっていました。また、屋外なので声の大きさなどにももう少し気をつけなければいけませんでした。

4. 感想

この日は小学校が休みになっていたのものでその中で子どもたちが集まってくれたのはとても嬉しかったです。アイスブレイクやダンスは子どもたちがとても元気で、自分も少し若返ったような気がしました。

その後は School Activity で自分の出番でした。実はこの School Activity は洪水で中止になっていたもので、この日になんとかレクチャーをする機会を設けて頂いたのもとても嬉しかったです。ただ、急だったのもものすごく緊張しました。このレクチャーは国内活動から一番力を入れて準備してきたものだったのできちんとやり終えたときとても達成感がありました。自分 1 人では考えつかないようなアイデアをみんなからもらったり、試行錯誤したりしてレクチャーを作り上げることができました。みんなでできたのもとても楽しかったですし、自分としてもこの経験を通してとても成長することができたと感じています。内容に関しては少しでも牛乳に対して興味を持ってもらえるようなものを考えました。ダンスなども取り入れるなど本当に自分のやりたいことをさせてもらえました。協力してくれたみんなには本当に感謝しかありません。自分のやりたいことができたので本当に自分としても楽しんでレクチャーができました。自分らしさを出せるボランティアがしたい！と思って ISAP に参加したのでとても満足でした。

この活動を通して、何かを変えることは本当に大変なことだと実感しました。ただ、こうして協力しあってできたことで大変でしたが本当に良い思い出になっています。今は自分たちのことが子どもたちの記憶に少しでも残っていたら良いなと思っています。自分たちがやってきたことは本当に小さな村の中での小さな活動でしたが、何か一つでも子どもたちのきっかけになれば私は嬉しいです。

Nutrition Lecture

文責：丹原 菜々子

1. 活動の目的・目標

子どもたちに食べ物の栄養素や好き嫌いせずに食べることの大切さを知ってもらい、その後の給食で、栄養素の働きを意識しながら残さずに食べてもらうようにすること。

2. 活動内容詳細

活動日程:2017 年 9 月 8 日、11 日、(12 日)

活動場所:Navais Borres Elementary School

活動目的

子どもたちに食べ物の栄養素や好き嫌いせずに食べることの大切さを知ってもらい、その後の給食で、栄養素の働きを意識しながら残さずに食べてもらうようにすることが目的です。

活動内容

給食の配膳が終わり、子どもたちが席に着いてから、30 分ほど時間をお借りして、子どもたちの前で食べ物の栄養素や好き嫌いせずに食べることの大切さを説明します。私が担当した日は、最初にフィリピン人キャンパーが、栄養素の働き（栄養素比率ピラミッドのようなもの）が書かれた大きな模造紙に、それぞれの食品がどこに当てはまるか子どもたちに質問しながら小さな紙を貼っていきます。

そのあとに国内参加者が、School Activity でも行った牛乳の栄養素のレクチャーを簡単に口頭で行いました。そしてそれをフィリピン人キャンパーが訳して子どもたちに伝えてくれます。その後に「いただきます」をするという流れでした。子どもたちが食べ始めて、少し経ったら私達は Base に帰るので、一緒には食べません。

Nutrition Lecture を行う日は 3 日間あり、それぞれの担当者をフィリピン人キャンパーが割り振ってくれます。自分の担当の日には work 活動を早く切り上げて、給食を食べる教室に向かいレクチャーを行います。今回は、豪雨による洪水で学校が休みになったため、2 日間のみ行いました。

3. 反省・改善点

反省点としてはまず準備不足があげられます。Nutrition Lecture はフィリピン人キャンパーが準備してくれているので、その指示に従って教えれば良いということで日本人は何も準備をしていませんでした。そしてレクチャーの 10 分前くらいに、日本人は牛乳の栄養

素について説明してほしいとお願いされました。School Activity で牛乳についてのレクチャーを担当していた人が 4 人いたのでその 4 人でレクチャーの一部を口頭のみで行いました。急なことだったので、School Activity 用のマテリアルも持って行っていなかったため、子どもたちに伝わりにくかったことが反省点だと思います。しかしフィリピン人キャンパーが訳してくれる時に少しくイズ形式にするなどのアレンジをして訳してくれていたため、子ども達はあまり飽きることなく聞いてくれていました。

また、School Activity とまったく同じ内容を行ったため、子どもたちにとっては新鮮味がなかったのではないかと思います。せつかく時間をもらっているので新しい内容を教えられたらよかったと思いました。Nutrition Lecture についてフィリピン人キャンパーと内容を共有したり、一緒に考えたりする時間があればもっと良いものになると思います。

4. 感想

私は今回フィリピンでレクチャーをするまで、子どもたちはあまり栄養素のことなどは知らないのではないかと考えていました。でも Nutrition Lecture で最初にフィリピン人キャンパーが行った、食品ピラミッドに当てはまる食品を貼っていくレクチャーでも、貼る前から答えている子が多くいました。牛乳についてもよく理解しており、私は驚きました。きっと何回もこういったレクチャーを受けているのではないかと思います。子どもたちの栄養素についての理解度をあらかじめ知っていれば、もう少し難易度を上げた有意義なレクチャーができると思います。しかし、給食は 1 年生から 6 年生まで全学年が集まって食べているのでレクチャーの難易度をどの学年に合わせるかは難しいと思いました。

そして、給食を目の前にして早く食べたいという気持ちがある中で、子どもたちはみんなレクチャーを真剣に聞いてくれたことに驚きました。それは、フィリピン人キャンパーが子どもたちをうまく巻き込むように話すのが上手だからだと思います。子どもたちを飽きさせないレクチャーの仕方をフィリピン人から学び、私たち日本人も取り入れられたらいいなと思います。

Home Stay

文責：井原 峻貴

1. 活動の目的・目標

実際に現地の方と寝食を共にしてより深くフィリピンという外国の文化や生活を肌で感じ、学ぶこと。

2. 活動内容詳細

日程： 9月7日（木）～ 9月13日（水）

活動場所：各ホームステイ先

活動内容

日本人2人、フィリピン人キャンパー1人で各ホームステイ先にホームステイしました。ホストファミリーに朝食や夕食をふるまってもらったり、フィリピン人と一緒に寝たりしました。日曜日の Sunday homestay では各ホームステイ先のホストファミリーと一緒にショッピングをしたり、川で釣りをしたりと様々なことをして楽しみました。

3. 反省・改善点

反省として一番に挙げられるのは、積極性です。国外活動を終えて思ったのは「もっとフィリピン人と話しをしたかったな」ということです。「今日はこんなことをした」とか「明日はこんなことをする」みたいな簡単な会話だけではなくて、価値観や考え方、今までどんな人生を歩んできたのかななどを積極的に聞いてみたかったです。それができなかった原因は英語力がなかったからだと思います。ホームステイ中も「こういうことを聞きたい」というのはありました。でも、それをうまく英語にできなかったり、会話が進んでいくので発言できなかったりしました。英語がもっとできたらなというのをフィリピンにいたときからずっと思っています。なので、日本に帰ってきてから、個人的に英語の勉強を始めました。次に海外の人と交流するときこのような後悔をしたくないです。今回のこの経験を次に活かしたいと思います。

4. 感想・反省

私がこの ISAP08 で最も思い出に残っているのが、このホームステイです。たぶん、それには楽しかったことだけではなく、少々きついこともあったからだと思います。私は国外活動の直前で病気にかかってしまい、みんなと一緒にフィリピンへ行くことができませんでした。しかし、LOOB さんのはからいで、病気が完全に治ったあと、途中から参加することができました。私がフィリピンに着いたのは、6日目の9月9日、ホームステイ3日目の夜でした。私は英語が苦手だったのですが、ホームステイは日本人2人で行くので、多少、英語ができなくても大丈夫だろうと思っていました。しかし、いざ行ってみると、同じホームステイ先だった、井深翔太さんに熱があるため、その日はベースで過ごすとのことでした。

そして、私はそのとき初めて出会ったフィリピン人キャンパーの Jade とホストファミリーと一緒に過ごすことになりました。正直言って、きつかったです。英語がほとんど聞き取れなくて、ずっと必死に単語をひろって聞き取ろうとしていました。でも、今、考えてみると Jade からしてもホストファミリーからしても僕とは初対面です。それなのに、彼らはとてもあたたかく迎えてくれました。特に Jade は私が楽しめるように、リラックスできるように接してくれました。国外活動を楽しむことができたのは彼らのおかげです。改めてありがとうございますと言いたいです。ホームステイ中、私はずっと Jade と同じベッドで寝ていました。Jade は習慣でいつも寝る前に音楽をかけていました。それを聞いていた私は、「うるさいな」と思うときもありました。でも、日本に帰ってきてから思い出すのはそのときの音楽を聴きながら Jade と一緒に寝ていた記憶です。今でも、ついつい口ずさんでしまうので、この間、Jade に曲名を教えてもらって自分のスマホに取り込みました。最近はずっと聴いています。

ホームステイで一番驚いたのは、シャワーです。ホームステイでのシャワーはあらかじめ汲まれた生活用水を桶ですくってかけるという様式でした。はじめは自分の中ですごく抵抗があって、「こんなのできれいになっているのかな」と思っていました。そのせいかシャワーを浴びる時間が長くなり、Jade に「長い！」言われたこともありました。でも、ホームステイ最終日になる頃には、すっかり慣れて割と短時間で入れるようになりました。人間どこでも適応できるものだなと思います。もちろん、日本で生活するときもそのシャワーにしろと言われると抵抗があります。

Friendship Night

文責：小嶋 楓子

1. 活動の目的・目標

フィリピン人の方々とお互いの文化を紹介してより絆を深めたり、Home Stay させて頂いたことに感謝したりすることを目的に行っています。

2. 活動内容詳細

日程：9月12日

活動場所：Base

活動内容：①料理

②各ホームステイのプレゼン

③キャンパーによるプレゼン

④ミスター&ミスコンテスト

①国内参加者からは、焼きそばと肉じゃがとみたらし団子を用意しました。主に料理係が材料を用意していたり、調理をしてくれたりしました。その結果とてもおいしく出来上がっていました。私のホストファミリーも” Good! Good!” といって喜んでくれていました。また、私たち日本人も久しぶりの日本料理に少し感動しながら頬張りました。フィリピン人側からも料理を提供してくれて、ひとつの異文化交流が出来たと思います。

②各ホームステイ先のファミリーと共に創作ダンスをしました。緊張しましたが、各家庭の個性が出ていて素敵な発表ばかりでした。また、何よりホストファミリーの皆さんと何かを作れる、というのがいい企画だと思います。一緒にダンスを練習したりと、楽しくコミュニケーションがとれたりといい機会でした。子供たちが恥じらいながらも楽しそうに踊る姿もかわいかったです。

③私たち日本人キャンパーは、今回「踊るポンポコリン」を披露しました。なかなか細かいステップもあり、踊るのに苦労している人もいましたが、ダンスリーダーを手本にみんなで教えあいながら練習するのがとても楽しかったです。実行委員・スタッフ合宿でのいいリフレッシュタイムでもあったと思います。また、フォーメーションチェンジや時間差で踊るパートを設けるなどフィリピン人の皆さんが楽しんでもらえるように工夫も凝らしました。最後にみんなで真ん中に集まって手を振っている写真は、みんなはじける笑顔でとてもいい一枚になりました。

④今回は、主にフィリピン人キャンパーさんのプレゼンで、ミスター&ミスコンテストを開催しました。国内参加者、フィリピン人キャンパーからそれぞれ3人ずつ男女を選び、男女ペアになってウォーキングとダンスを披露しました。可愛らしいダンスから、カッコいいダンス、エモーショナルなものまで、それぞれのペアの個性が溢れていました。フィリピン人

キャンパーのコンテストにかける熱意には、少々驚かされることもありましたが、自分をアピールするという日本人にはあまり馴染みのない文化を経験できるいい機会でもありました。

3. 反省・改善点

Friendship Night の目的は、ホームステイ先のファミリーも含め、みんなで一夜を楽しむことだと思っていました。楽しむということは達成できたと思うので、あまり反省点はありませんが、ひとつ料理に関しては、今回作っただけで終わってしまって、料理の名前すらもちゃんと紹介できていなかったの、作っただけの説明をする時間が少しでもあるといいと思います。フィリピン人キャンパーが作ってくれた料理の話も聞けたら嬉しいです。

4. 感想

Friendship Night は本当にパーティーで、とにかくにぎやかな一夜でした。というのも、日本人だけでなく、いつも一緒にいたフィリピン人キャンパーや、ホストファミリーの皆さんとも一緒に楽しむことが出来たことが何より嬉しかったです。ダンスの練習では、ああでもないこうでもない、と一部創作も含めながら、試行錯誤して作ることが出来ました。考えるのも、みんなに教えながら練習するのも、みんなの笑っている顔しか思い出せないくらいに楽しい時間でした。個人的には、本番少し間違えてしまったのが心残りです。また、今回はミスター&ミスコンテストにも参加させてもらって、最初は自分をアピールしなければいけないことにとにかくとまどったし、ペアダンスもどうしようかと悩みましたが、自分のアピールが下手でもみんなを盛り上げることが出来れば！と、ホストファミリーの皆さんやフィリピン人キャンパーの助けも借りながらなんとかやり遂げることが出来ました。終わってみるとやはり楽しく、とてもいい経験をさせてもらいました。異文化であっても、大勢の人が集まって、なにかを作ったり、披露しあったりすることはやはり楽しいものなんだな、と改めて感じました。写真をもても、みんなの笑顔をもて、また元気をもらっています。

国外活動写真

• Dumpsite Tour



• City Tour



• Work 活動



- School Activity



- Weekend Activity



- Homestay



第 4 章

実行委員、国内参加者の感想

第 8 回国際協働プロジェクト実行委員感想

第 8 回国際協働プロジェクト国内参加者感想①

第 8 回国際協働プロジェクト国内参加者感想②

実行委員感想

文責：池田 有希

13 日間のプログラムを通して、様々な場面で、多くの現地のフィリピン人と交流する機会がありました。ホームステイでは、私達のことをまるで家族の一員であるかのように迎え入れてくださり、とても短い期間ではありましたが、夜遅くまで、フィリピン人家族とお話をしたり、向こうのお酒を飲んでダンスをしたりと楽しい時間を過ごせました。ホテルではなく、ホームステイだからこそ味わう事が出来た貴重な経験と満足感を得る事が出来ました。School Activity も、割と固い感じなのかなと思っていましたが教室に入ってみると私の緊張を吹っ飛ばすくらいの和やかで素敵な雰囲気があり、落ち着いて授業をすることが出来ました。子ども達の笑顔に癒されたり、言葉は通じなくてもジェスチャーを使ってみたり、笑いかけてみたり、次第に心が通じ合っていると実感することができ、本当に嬉しく思いました。給食の時間は、栄養の足りていない子たちが集められていると聞いていたので元気がなかったりするのかな？と思っていましたが、実際会ってみるとすごく美味しそうに給食を食べていて、楽しそうに友達と話していて少し安心しました。

また、このプログラムでは楽しい、嬉しいという場面だけではなく、ホームステイ中にいつのまにか私物を家のものにされた場面や、ダンプサイトツアーの際に、貧富の差を改めて目の当たりにして、悲しんだ場面などもありました。しかし、これは、13 日間を通して、多くの現地のフィリピン人との交流の機会が設けられていたからこそ、このような感情を味わう事が出来たのではないかと思います。

また、今回の ISAP08 では実行委員として携わってきたわけですが、終わってみると反省点、改善点が非常に多く、正直悔いも残っています。スタッフに助けられて何とかレクチャーが形にはなったものの、教えたかったことはあれだったのかな？と考えています。と言うのも、英語に訳しているうちにどんどん簡単な説明以外を省いてしまったり、どうしたら子供たちが聞いてくれるか、楽しんでもくれか、という課題もあつたりと、本来教えたかった事からは反れてしまったように思います。そしてもっともっと出来る事があつたはずと多くのメンバーが反省していました。それは来年のメンバーにきちんと伝えていきたいと思っています。ISAP は毎年きちんと引継ぎ会を行っており、また今年から新たに OB・OG 会も開かれ、より一層クオリティの高い活動になっていくはずです。わたしは今回の活動を通して ISAP の魅力を実感したので色々な人にこの活動を伝えていきたいと思いました。本当に一生忘れられないような貴重な経験をフィリピンですることが出来て、大変嬉しく思っています。

国内参加者感想①

文責：市川 早紀

私は今回の ISAP08 にスタッフとして参加しました。もともと I. S. A. に入会する時から ISAP に興味があったことや、同じ I. S. A. の支部の友達が ISAP07 に参加し、08 では実行委員をするということだったので自分も参加を決めました。今年は支部ごとの人数がだいぶ偏っていたため、最初の実行委員・スタッフ合宿では支部ごとで固まってしまう、仲良くなれるのかどうか不安を感じていました。ですがアイスブレイクや合宿を通して打ち解けることができ、仲良くなることができました。国内で仲良くなっていたおかげで国外活動中も助け合うことができたのでとても良かったと思います。国外活動に関してはほとんど海外経験のない私にとってはかなり不安なものでした。渡航直前の日本での合宿では不安で全く寝付けませんでした。L00B のスタッフさんや ISAP07 の参加者からフィリピンについての話はたくさん聞いていましたが、どんな生活を送るのか全く想像できておらず、ただ不安でいっぱいでした。また Wi-Fi が使えないため、当時進行していた別の仕事の連絡がとれないことも不安の要因でした。直前の合宿では楽しさより不安の方が勝っていたのですが、空港につき、いざ日本を離れると思うとフィリピンでの生活が楽しみになり、早く到着してほしいとさえ思いました。イロイロ市に到着するとフィリピン人キャンパーさんが出迎えてくれて、いよいよ始まるのだと思いました。あっという間に 2 週間が経ち、日本に帰国した時にはフィリピンでの生活が幻かのように思えました。終わってみると全て思い出ですが、フィリピンでの生活は想像以上に困難なことがたくさんありました。日本では当たり前のように使える水を使うことができなかったり、英語が通じず上手く意思疎通をはかることができなかったり、文化の違いにとまどったりと日本では経験しない困難にぶつかりました。ですがこういった経験の中から学んだことは多く、とても良い経験をしたと思っています。また困難なことがあったからこそメンバー間の助け合いがたくさん行われ、絆が深まったと感じました。私自身、日本に帰りたいとさえ思った時もありましたが仲間の強い支えのおかげで乗りきることができました。今回の ISAP で感じたことの一つが「人の温かさ」です。フィリピン人も国内参加者も困ったことがあれば助けてくれ、体調や気分を自分のことのように気にかけてくれました。1 人でいると誰かが来てくれて話しかけてくれました。この温かさがあったからこそ困難があっても日々楽しく生活することができていたと思い、感謝の気持ちでいっぱいです。日本での生活の中でも人の温かさを感じる場面はありますが、当たり前のように感じてしまって気づけていませんでした。周りの人の温かさをたくさん感じた分、同じように自分も誰かを支えられるような人間でありたいと思いました。またこのように自分のことを気にかけてくれる人々を大切にしたいと思いました。

フィリピンでの生活を通して、私は大きく自分の価値観が変わりました。これまで私は

「貧しい＝かわいそう」というイメージを持っていました。ISAP の参加費を支払うときに「日本では学生のバイト代で海外に行くことさえできるのに、貧しい国に住む人々は一生をかけても外の世界をみることはできないのか」と複雑な思いを感じました。この他にもお金がなくて小学校すら通えない子供がいるなど、貧しいゆえに様々なことを体験する機会が得られないことに対して「かわいそう」と思いました。ですがフィリピンに行き、そこで生活する人々を実際に見て、かわいそうなどとは全く思いませんでした。むしろ家族や周りの人とのつながりを大切に、生き生きとした表情で日々を楽しく生きる姿にうらやましいとさえ思いました。一番心に残っている出来事はダンプサイトと呼ばれるごみ処理場で、ごみを拾って生活する人々にインタビューした時のことです。この環境はゴミが散乱していて悪臭がひどく、衛生的には良いとはいえず、とても生活したいとは思えない場所でした。またごみを集めてお金にするという仕事もそんなに稼げるというわけではありません。私だとしたらもっと良い環境に移り住み、別の職を探したいと思います。ですがインタビューでその家族のお母さんは「現在の生活に不満を持っていないので、どこかに移りたいとは思いません。家族と一緒に暮らせるだけで幸せです。」と答えました。私はこの回答に驚きましたが、それ以上に自分の生活に誇りが持てるということは素晴らしいことだと思いました。また家族を大事に考え、一緒に暮らすことに幸せを感じているという部分に感動しました。年を重ねるごとに家族と過ごす時間が少なくなっている自分にとって改めて家族の在り方を考えるきっかけになりました。私が訪れた村の環境は貧しかったのかもしれませんが、愛にあふれ、みんなが協力し合いながら生き生きと生活していました。これが本来の人間のあるべき姿なのではないかとさえ思い、日本に帰ってから 1 週間ずっと自分の生活ってなんなのだろうと虚無感に襲われました。私はフィリピンでの生活で、お金にはかえられない大切なものに気づかされました。貧しいとかわいそうは必ずしも同じではなく、むしろ私たちにはない良さで溢れていました。日本にいただけでは分からない価値観を見つけることができ、自分の心が豊かになったような気がしました。

今回、私たちは協働を行うという目的でこの国を訪れましたが、与えたものよりも与えられたものの方が多かったと感じます。私にとっては日本で生活するよりはるかに学ぶことが多く、とても充実した 2 週間を過ごすことができました。フィリピンで作った思い出は私の大切な宝物です。この思い出は国内活動から実行委員長を始め、実行委員のみなさんが ISAP08 をつくりあげてくれたことでできたものだと思います。本当にありがとうございました。大人数のスタッフをまとめるのは大変だったかもしれませんが、私はこのメンバー全員で国内活動からともに頑張ることができて本当に良かったと心から思います。

国内参加者感想②

文責：中藤 純子

私は岡山大学 2 回生の中藤純子です。私は ISAP08 に参加者であるスタッフとして参加しました。ISAP の活動は海外経験やボランティア経験の少ない私にとってはしんどい部分もありましたが、見るもの、感じることをすべてが新鮮で私の中でかけがえのない経験になりました。

まず、私がなぜ ISAP08 に参加したいと思ったかという、私は現在、教育学部に所属しており、将来小学校の教師になるため日々学んでいます。教師にとって大切なものは教師になるための勉強だけでは身につけられないと思ったからです。視野が狭い、社会を知らないといわれる教師にとって大学生のうちに様々なものを見て、経験しておくことは非常に大切なことであるからです。子供たちに何かを伝えるとき、できるだけ実体験に基づいて伝えられることで、ただ知識を伝達するのとは違い、より心に残りやすく子供たちの興味を広げられるのです。ISAP の活動にはスクールアクティビティという子供たちに食べることや栄養の大切さをレクチャーしたり、ホームステイ先のこどもたちと延々と遊び続けたりするなど子供たちと触れ合う機会が山のようにありました。その中で、素直でかわいいところなど日本の子供たちと共通する部分や、教室でとてつもなく騒がしいハイテンションすぎる様子など日本の子供たちとは少し違った一面を見ることができ、より一層子どもって面白い、可愛いと思えるようになりました。特にホームステイ先の子供はほかの子供たちと比べるとやはり思い入れが大きくなってしまって、もう国外活動が終わって二カ月近くたちますが今でも思い出してしまうほどです。教育学部として子どもとどう関わろうとか気張っていましたが、たった一週間一緒に遊んだだけで言葉もほぼ通じてないはずなのに帰るときに思いっきり涙してくれる子どもたちは本当に愛おしかったです。それだけでも ISAP に参加してよかったと本気で思うことができました。

ISAP の様々な活動を通して得られたものというのは山ほどあって、活動自体が最高の思い出であったり、スクールアクティビティや日々の中でどうしても言語の壁を感じてしまったことだったり、また、フィリピン人の若者の考え方や価値観に触れたことだったり、たくさんあって言い切れませんが、中で私が一番うれしいのは、フィリピンに帰る家ができること、また、日本人の良さも改めて認識できてよりつながりが強固になったと思えたことです。これは本当に旅行じゃ得られなかったと後から思いました。ナナイ（お母さん）は厳しかったけれどすごく良くしてくれて、本当のお母さんみたいでした。子どもたちは目があったら満面の笑みで「セルフイーセルフイー」とか言って近づいてきたり、困ってたら「Are you OK?」って言っていつでも助けようとしてくれたりすごくかわいくて、小さい妹たちができたみたいでした。また、毎日生活する中で見えてきたのは国内参加者の心遣いややさし

さでした。「トイレ行きたい。」と言ったら自然と誰かが「私ティッシュ持ってるよ！」と聞いてもいないのに名乗り出てくれたり、レクチャーで何か困っていると担当じゃない人も自然と助けに行っていて、誰かが指示しなくても自分から協力しようとしたり助けてあげようとしたりするの、やられた側も見ている側も心が温かくなって、この人たちと一緒に活動できてよかったと心から思いました。フィリピンにきて、慣れない生活の中だったからこそ、日本で生活していたら気づけなかったであろうさりげない人の優しさに気づくことができました。 「外国に行って自国の良さを知る。」とよく言いますが生活をしてみて、トイレとかお風呂とか清潔なところや教育を受けられるありがたさとか「このことか！」とたくさん思いましたが、日本人の国民性の良さを実感できたことは本当に大きいです。ただ、それはフィリピン人を批判しているわけではありません。私はフィリピン人のおもてなしを大切にするとところとか、テンションが毎日高いところとか冗談が大好きなところとか、情に厚いところとかとても好きです。フィリピンに行ったことで自国の良さも他国の良さも同時に学ぶことができました。

ISAPは旅行と違い、でも留学とも違います。楽しいだけでなくしんどいこともたくさんありました。それでもいってよかった、また行きたいと今思えるのは一緒に活動した日本人のみんなや、現地で良くしてくれたフィリピン人がいたからです。

ISAP08に参加して、みんなと活動できて本当に良かったです。かけがえのない経験にすることができました。この経験が自分の将来や、ひいては教師になった時には自分が教える子どもたちのためになったらいなと思います。

第 5 章

実行委員長全体総括

実行委員長全体総括

実行委員長として第 8 回国際協働プロジェクト(以下、ISAP08)に携わった一年を振り返りました。

本プロジェクトの目標の一つとして、「協働を通じた実践により自他ともに成長する」を掲げているが、今年のメンバーをみて本当に成長を感じることが多くありました。初めてメンバーの顔合わせをしたときには、緊張もあり、勉強会なども堅くなっていました。しかし、合宿の回数を重ねるごとに、お互い遠慮せず意見を言い合う仲になり、積極的に発言していこうという姿勢が見られました。合宿がとても有意義なものに変化していきました。また、個人の課題を共有することで、助け合い「子供達のちからになる」というもう 1 つの目標達成に向け取り組みました。この活動を通してかけがえのない仲間と出会い、共に活動していく中で、共に成長することができたと思います。

一方で、ISAP08 が与えた影響はどうだったかと考えると、まだ多くの課題は残されています。国外活動では、言葉の壁や経験の差によって十分に力を発揮できない場面がありました。小学校でのレクチャーを準備するときなど、経験豊富な LOOB スタッフに頼ってしまいがちでした。もちろん、協働を掲げるプロジェクトであるため、協力は不可欠ですが、ISAP メンバーがあまり意見を出せずにいたことは反省点です。今回は、初めて海外に行くメンバーもあり、慣れない環境の中でプロジェクトを成功させるのは簡単ではありませんでした。今回は School Activity など準備の遅れが目立っていたので、そういうところも今後改善しなければなりません。

これらの反省を生かし、今後も ISAP は、学生にできることを模索し続け、更なる躍進を遂げ、関わるすべての人々にとって大きな学びと成長の機会となっていくことを期待しています。

2017 年 12 月 第 8 回国際協働プロジェクト(ISAP08)実行委員長 佐藤 秀

第6章

第8回国際協働プロジェクト予算書 第8回国際協働プロジェクト決算報告

第8回国際協働プロジェクト予算書
第8回国際協働プロジェクト決算報告

第8回国際協働プロジェクト予算書

会計

支出内訳（案）

1 活動運営費		単位(円)
滞在費	現地の交通費、宿泊費18人分	1,404,000
企画活動費	資材費	40,000
交流活動費	資材費、交流会諸費用	15,000
2 実行委員運営費		
交通費	遠方者への援助費	78,856
会議等施設費	会議室費	50,000
広報費	広報ビラ印刷代、資材費	10,000
事前調査渡航費		69,108
事前調査活動費	現地宿泊費、交通費	28,035
雑費	印鑑作成代、wifiルーター料等	15,238
合計		1,710,237

収入内訳（案）

項目		単位(円)
参加費	18人分(1人8万円)	1,440,000
日本国際学生協会助成金		120,000
共立国際交流奨学財団		150,000
昨年度繰越		237
合計		1,710,237

第8回国際協働プロジェクト決算報告

会計

支出内訳

1 活動運営費		単位 (円)
滞在費	現地交通費、宿泊費18人分	1,404,000
企画活動費、交流活動費	資材費等	6,891
2 実行委員運営費		
交通費	遠方者への援助費	110,000
会議費	会議室費	21,580
広報費	広報ビラ印刷等	4,726
雑費	wifiルーター使用代等	19,040
総計		1,566,237

収入内訳

項目		単位 (円)
参加費	参加費18人分 (1人：72000円)	1,296,000
ISA援助金		120,000
協賛金等	共立国際交流奨学財団	150,000
前年度繰越金		237
総計		1,566,237

第8回国際協働プロジェクト (ISAP08) 事業報告書

発行責任者 佐藤秀 (第8回国際協働プロジェクト 実行委員長)
編集責任者 長瀬円香 (第8回国際協働プロジェクト 広報部長)
発行元 日本国際学生協会 国際協働プロジェクト